

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2012年03月05日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2010000035"/>	整理番号 <input type="text" value="11521"/>	担当者 <input type="text" value="峯崎 隆司"/>
表 題	<input type="text" value="EGCGによるサイトカイン産生誘導による免疫賦活化"/>		
技術分野	<input type="text" value="食品・バイオ"/>	<input type="text" value="化学・薬品"/>	<input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="免疫賦活剤"/>		
目 的	<input type="text" value="本発明は、緑茶由来低分子化合物である(-)-Epigallocatechin-3-gallate (EGCG)によるマスト細胞活性化とそれによるサイトカイン産生誘導を介する免疫賦活化を目的とする。"/>		
技術概要	<input type="text" value="糖尿病のような生活習慣病や老化によって、免疫細胞の機能が低下し、病原菌、ウイルスに対して易感染性となる。このような免疫低下患者の免疫を賦活化する薬剤はこれまで主にT細胞を標的として開発されてきた。しかし、T細胞によるサイトカイン産生の増強は、過剰になると、サイトカインストームを生じて、重篤な副作用を起こす。本発明は、従来の免疫賦活化剤とは異なり、マスト細胞をターゲットとする。発明者らは、EGCGがマスト細胞を活性化して、IL-13, TNF-alpha等のサイトカイン産生を誘導するが、脱顆粒は誘導しないことを発見した。これらの産生は、T細胞によるそれと比較して小さく、マスト細胞が組織固定型であるため、局所的である。EGCGは、脱顆粒は起こさず、またT細胞の活性化には、負に働くことが示されているので、即時型のアレルギーやサイトカインストームを起こさずに免疫賦活化が期待できる。"/>		

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター (NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp